

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

科目名	生活支援看護学特論	
担当者	坂梨薫、永田真弓、青木由美恵、深谷安子、勝川由美、留畑寿美江	
授業の到達目標及びテーマ	<p>1. 地域社会で生活するあらゆる人々の疾病の予防、健康生活における看護者の役割が理解できる。</p> <p>2. 人々の疾病の予防、健康生活における今日的課題が理解できる。</p> <p>3. 対象者と家族の複雑・多様なニーズに対する看護職のあり方について理解できる。</p>	
授業の概要	<p>広く地域社会で生活するあらゆる人々の疾病の予防、健康生活における看護者の役割と今日的課題を概観し、対象者と家族の複雑・多様なニーズに対する看護職のあり方を教授する。</p>	
授業計画	a. 内容の概要:授業回ごとの具体的授業内容 b. 到達目標:授業回ごとに目標とする理解度の目安	
第1回	a.	オリエンテーション 生活支援看護学特論の概要とその特徴、進め方、評価(坂梨薫)
	b.	生活支援看護学特論の到達目標や進め方等について理解できる。
第2回	a.	生活支援における母子看護の役割と展望 ①妊娠・出産に伴う家族への支援(勝川由美)
	b.	妊娠・出産に伴う家族への支援が理解できる。
第3回	a.	生活支援における母子看護の役割と展望 ②出産後の家族への支援(坂梨薫)
	b.	出産後の家族への支援が理解できる。
第4回	a.	生活支援における母子看護の役割と展望 ③子どもの生活を支援する家族とのパートナーシップ(永田真弓)
	b.	子どもの生活を支援する家族とのパートナーシップが理解できる。
第5回	a.	生活支援における老年看護の役割と展望 ①認知症の当事者とその家族への支援(青木由美恵)
	b.	認知症の当事者とその家族への支援が理解できる。
第6回	a.	生活支援における老年看護の役割と展望 ②高齢者の生活リハビリテーション(留畑寿美江)
	b.	高齢者の生活リハビリテーションが理解できる。
第7回	a.	生活支援における在宅看護の役割と展望(深谷安子)
	b.	生活支援における在宅看護の役割と展望が理解できる。
第8回	a.	これまでの講義から、関心あるテーマについて文献検討を行いレポートを作成する(坂梨薫)
	b.	生活支援看護学分野における看護者の役割と展望について述べる事ができる。
教科書	講義にて、適宜提示する。	
参考書	講義にて、適宜提示する。	
準備学習	事前に提示された文献を読んで講義に臨む。	
成績評価方法・基準	課題レポート80%、プレゼンテーションとディスカッション20%を総合的に評価する。 レポート、プレゼンテーションは、論証性、内容性、表現性、ディスカッションは参加度を重視する。	

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

科目名	母子看護学特講 I
担当者	坂梨薫、永田真弓
授業の到達目標及びテーマ	1.母子看護領域で用いられている諸概念や理論について、母子看護実践への適用の観点から理解する。 2.母子の健康支援について理論に基づく介入方法を説明できる。
授業の概要	母子看護の対象である母親と子ども、および家族の生活や健康問題への反応を的確に把握するための諸概念や理論をふまえ、母子の健康生活の維持・増進の支援について科学的に探究する。
授業計画	a. 内容の概要: 授業回ごとの具体的授業内容 b. 到達目標: 授業回ごとに目標とする理解度の目安
第1回	a. オリエンテーション 母子看護対象論の概要とその特徴、進め方、評価(坂梨薫) b. 母子看護対象論の到達目標や進め方等について理解できる。
第2回	a. 家族を理解するために必要な理論と看護への活用1(坂梨薫) 1) 母子関係理論、乳幼児の関係性理論の概観 b. 母子関係理論、乳幼児の関係性理論の概観が理解できる。
第3回	a. 2) 母子関係理論、乳幼児の関係性理論の事例展開(坂梨薫) b. 母子関係理論、乳幼児の関係性理論を用いて、事例が説明できる。
第4回	a. 家族を理解するために必要な理論と看護への活用2(坂梨薫) 1) 家族看護の理論 ① 家族発達理論、② 家族システム理論、③ 家族ストレス対処理論 b. 家族発達理論、家族システム理論、家族ストレス対処理論の概観が理解できる。
第5回	a. ④ カルガリー家族看護アセスメントモデルの活用(坂梨薫) b. カルガリー家族看護アセスメントモデルの活用について理解できる。
第6回	a. ⑤ カルガリー家族看護アセスメントモデルの事例展開(坂梨薫) b. カルガリー家族看護アセスメントモデルを用いた事例について説明できる。
第7回	a. 子どもと家族を理解するために必要な理論と看護への活用1(永田真弓) 新生児期から青年期にいたる発達に関する代表的な理論 ① エリクソンの発達理論 b. エリクソンの発達理論の概観が理解できる。
第8回	a. ② ピアジェの発達理論(永田真弓) b. ピアジェの発達理論の概観が理解できる。
第9回	a. 子どもと家族を理解するために必要な理論と看護への活用2(永田真弓) 子どもと家族のセルフケア理論 b. 子どもと家族のセルフケア理論の概観が理解できる。
第10回	a. ストレスコーピング理論(永田真弓) b. ストレスコーピング理論の概観が理解できる。
第11回	a. セルフケア理論やストレスコーピング理論の看護実践への活用(永田真弓) b. セルフケア理論やストレスコーピング理論を用いた看護実践について説明できる。

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

第12回	a.	ヘルスプロモーション理論と母子看護(坂梨薫) ①母子看護におけるヘルスプロモーション理論の適用方法
	b.	母子看護におけるヘルスプロモーション理論の適用方法について理解できる。
第13回	a.	②セルフケアプロセスとセルフケアに必要な能力(坂梨薫) ③女性の健康生活に関するアセスメントと看護援助のあり方
	b.	セルフケアモデルを用いた女性の健康生活について理解できる。
第14回	a.	④ヘルスプロモーション概念を用いたヘルスケアシステムの構築(坂梨薫)
	b.	ヘルスプロモーション概念を用いたヘルスケアシステムの構築について理解できる。
第15回	a.	⑤セルフケアモデルを用いた女性への看護実践の活用(坂梨薫)
	b.	セルフケアモデルを用いた女性への看護実践について説明できる。

教科書	講義にて、適宜提示する。
参考書	講義にて、適宜提示する。
準備学習	事前に提示された文献を読んで講義に臨む。
成績評価方法・基準	課題レポート80%、プレゼンテーションとディスカッション20%を総合的に評価する。 レポート、プレゼンテーションは、論証性、内容性、表現性、ディスカッションは参加度を重視する。

科目名	母子看護学特講Ⅱ
担当者	永田真弓、坂梨薫、池川明、豊島勝昭、廣瀬幸美、高橋泉、渡邊輝子
授業の到達目標及びテーマ	1. リプロダクティブ・ヘルスの概念、母親役割理論と母子関係、および妊娠分娩に関する自己決定の支援について理解する。 2. 健康問題をもつ子どもと家族の援助を通して、子どもとその家族の看護を理解する。

授業の概要	女性のライフステージ全般をリプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から診断し、母子の健全な育成に関する諸因子、女性の心身における成熟と衰退の過程、対象の生活や健康問題への反応を理解するために必要な諸理論を教授する。さらに、健康問題をもつ子どもとその家族が生涯を通して健康生活を維持・増進できるように支援するために必要な、アセスメントと看護実践について教授する。
-------	---

授業計画	a. 内容の概要:授業回ごとの具体的授業内容 b. 到達目標:授業回ごとに目標とする理解度の目安	
第1回	a.	オリエンテーション 講義の概要とその特徴、進め方、評価、女性のライフステージ各期における健康問題(坂梨薫)
	b.	母子看護実践論の到達目標や進め方等について理解できる。
第2回	a.	リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念と母子看護(坂梨薫)
	b.	リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念が理解できる。
第3回	a.	胎児記憶と母子関係(池川明)
	b.	胎児記憶と母子関係について理解できる。
第4回	a.	NICUにおけるチーム医療と家族支援(豊島勝昭)
	b.	NICUにおけるチーム医療と家族支援について理解できる。

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

第5回	a.	NICU退院後の子どもと家族への継続支援(豊島勝昭)
	b.	退院後の子どもと家族への継続支援について理解できる。
第6回	a.	先天性心疾患を持つ乳幼児とその家族への看護(廣瀬幸美)
	b.	先天性心疾患を持つ乳幼児とその家族への看護が理解できる。
第7回	a.	先天性心疾患を持つ学童・思春期にある子どもとその家族への看護(廣瀬幸美)
	b.	先天性心疾患を持つ学童・思春期にある子どもとその家族への看護が理解できる。
第8回	a.	小児がん治療中の子どもの食生活支援(永田真弓)
	b.	小児がん治療中の子どもの食生活支援が理解できる。
第9回	a.	小児がん治療中の子どもの運動・生活活動への支援(永田真弓)
	b.	小児がん治療中の子どもの運動・生活活動への支援が理解できる。
第10回	a.	小児専門看護師のアセスメントと臨床判断 ①小児医療のプレパレーション(渡邊輝子)
	b.	小児専門看護師のアセスメントと臨床判断に基づく小児医療のプレパレーションが理解できる。
第11回	a.	小児専門看護師のアセスメントと臨床判断 ②終末期にある子どもと家族への援助(渡邊輝子)
	b.	小児専門看護師のアセスメントと臨床判断に基づく終末期にある子どもと家族への援助が理解できる。
第12回	a.	医療的ケアを必要とする子どもと家族の在宅療養に向けた支援(高橋泉)
	b.	医療的ケアを必要とする子どもと家族の在宅療養に向けた支援が理解できる。
第13回	a.	医療的ケアを必要とする子どもと家族の在宅療養中の支援(高橋泉)
	b.	医療的ケアを必要とする子どもと家族の在宅療養中の支援が理解できる。
第14回	a.	キャリアオーバーする慢性疾患や障害を持つ患者・家族の現状と課題(永田真弓)
	b.	キャリアオーバーする慢性疾患や障害を持つ患者・家族の現状と課題が理解できる。
第15回	a.	キャリアオーバーする慢性疾患や障害を持つ患者・家族の支援(永田真弓)
	b.	キャリアオーバーする慢性疾患や障害を持つ患者・家族の支援が理解できる。

教科書	講義にて、適宜提示する。
参考書	講義にて、適宜提示する。
準備学習	事前に提示された文献を読んで講義に臨む。
成績評価方法・基準	課題レポート80%、プレゼンテーションとディスカッション20%を総合的に評価する。 レポート、プレゼンテーションは、論証性、内容性、表現性、ディスカッションは参加度を重視する。

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

科目名	母子看護学特講Ⅲ	
担当者	坂梨薫、永田真弓、勝川由美、山本詩子、棒田明子、滝川国芳	
授業の到達目標及びテーマ	<p>1.母子および家族関係を理解する理論をもとに、乳幼児をもつ家族のアセスメントと援助方法について理解する。 2.育児期にある母親の不安や子どもの虐待等、現代社会における子どもと家族を取り巻く諸問題について理解を深める。 3.地域における母子の継続ケアの現状と課題ならびにヘルスケアシステムについて理解する。 4.地域で生活する先天異常・慢性疾患の子どもの心理社会的問題の実態をもとに包括的ケアおよびチームアプローチについて考察できる。</p>	
授業の概要	<p>母子の家族関係を理解する概念・理論を基盤に、育児期にある母親の不安や子どもの虐待など、現代社会における子どもと家族を取り巻く諸問題について、子どもを育て、また子どもから育てられ成長発達していく母子関係の両側面から捉え、子育て支援および家族のQOL向上へのアプローチについて教授する。また、地域で生活する先天障害や後天的に健康障害をもった子どもと家族に焦点をあててサポートシステムの現状を分析し、医療と保健・福祉・教育の連携のあり方と課題を探究する。</p>	
授業計画	a. 内容の概要:授業回ごとの具体的授業内容 b. 到達目標:授業回ごとに目標とする理解度の目安	
第1回	a.	オリエンテーション 講義の概要とその特徴、進め方、評価(永田真弓)
	b.	母子サポートシステム論の到達目標や進め方等について理解できる。
第2回	a.	慢性疾患や障害のある子どもと家族をサポートするネットワーク ①小児慢性疾患の市民グループ活動の意義(永田真弓)
	b.	慢性疾患や障害のある子どもと家族をサポートする市民グループ活動の意義が理解できる。
第3回	a.	慢性疾患や障害のある子どもと家族をサポートするネットワーク ②小児慢性疾患の市民グループ活動の実際(永田真弓)
	b.	慢性疾患や障害のある子どもと家族をサポートする市民グループ活動の実際が理解できる。
第4回	a.	慢性疾患や障害のある子どもと家族をサポートするネットワーク ③小児慢性疾患の市民グループ活動における看護職の役割(永田真弓)
	b.	慢性疾患や障害のある子どもと家族をサポートする市民グループ活動における看護職の役割が理解できる。
第5回	a.	慢性疾患や障害のある子どもと家族をサポートするネットワーク ④これまでの講義から、関心あるテーマについて文献検討を行う(永田真弓)
	b.	慢性疾患や障害のある子どもと家族をサポートするネットワークについて文献検討を行う。
第6回	a.	慢性疾患や障害のある子どもと家族をサポートするネットワーク ⑤発表とディスカッション(永田真弓)
	b.	文献検討に基づき慢性疾患や障害のある子どもと家族をサポートするネットワークについて説明できる。
第7回	a.	病弱・身体虚弱児教育の現状と課題(滝川国芳)
	b.	病弱・身体虚弱児教育の現状と課題が理解できる。
第8回	a.	インクルーシブ教育システムと病弱・身体虚弱児教育(滝川国芳)
	b.	インクルーシブ教育システムと病弱・身体虚弱児教育が理解できる。
第9回	a.	地域における母子の継続ケアシステムの現状と課題 -産後ケアモデル事業-(山本詩子)
	b.	地域における母子の継続ケアシステムの現状と課題が理解できる。
第10回	a.	開業助産師のネットワークシステム(山本詩子)
	b.	開業助産師のネットワークシステムが理解できる。
第11回	a.	地域における育児支援の現状と課題(棒田明子)
	b.	地域における育児支援の現状と課題が理解できる。

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

第12回	a.	家族支援の現状と課題 ①韓国の産後ケア ②カナダのファミリーサポート(坂梨薫)
	b.	韓国・カナダにおける家族支援の現状と課題が理解できる。
第13回	a.	家族支援の現状と課題 ③英国の助産システム(勝川由美)
	b.	英国の助産システムにおける現状と課題が理解できる。
第14回	a.	諸外国の家族支援の現状から本邦の課題を明らかにする ④文献検討(勝川由美)
	b.	諸外国の現状から本邦の課題が明らかにできる。
第15回	a.	諸外国の家族支援の現状から本邦の課題についての発表・ディスカッション(勝川由美)
	b.	諸外国の現状から本邦の課題を説明できる。

教科書	演習にて、適宜提示する。
参考書	演習にて、適宜提示する。
準備学習	事前に提示された文献を読んで講義に臨む。
成績評価方法・基準	課題レポート80%、プレゼンテーションとディスカッション20%を総合的に評価する。 レポート、プレゼンテーションは、論証性、内容性、表現性、ディスカッションは参加度を重視する。

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

科目名	母子看護学演習
担当者	永田真弓、坂梨薫、勝川由美
授業の到達目標及びテーマ	<p>1.母子看護研究の動向と課題を国内外の文献により把握する。 2.母子看護領域における自らの研究課題について、文献クリティークを通じて明確化する。</p>
授業の概要	母子看護研究の動向と課題を国内外の文献により把握するとともに、自らの研究課題の明確化に向けての文献クリティークを行う。
授業計画	a. 内容の概要:授業回ごとの具体的授業内容 b. 到達目標:授業回ごとに目標とする理解度の目安
第1回～	a. オリエンテーション 演習の概要とその特徴、進め方、評価(永田真弓) 文献検索・レビュー、文献クリティークの方法
第2回	b. 母子看護学演習の到達目標や進め方等について理解できる。 文献検索・レビューと文献クリティークの方法について理解できる。
第3回～	a. 国内外における母子看護研究に関する文献レビュー(坂梨薫・永田真弓・勝川由美)
第7回	b. 自らの母子看護に関する実践・研究課題を明確化するために、文献を収集し、レビューすることができる。
第8回～	a. 各自の関心あるテーマに関する母子看護研究に関する文献クリティーク(坂梨薫・永田真弓・勝川由美)
第15回	b. 収集した文献の中から、自らの研究課題に関する論文を取り上げ、クリティークできる。 研究論文のクリティークを通じて、自らの研究課題と方法を検討する。
教科書	講義にて、適宜提示する。
参考書	講義にて、適宜提示する。
準備学習	事前に提示された文献を読んで講義に臨む。
成績評価方法・基準	課題レポート80%、プレゼンテーションとディスカッション20%を総合的に評価する。 レポート、プレゼンテーションは、論証性、内容性、表現性、ディスカッションは参加度を重視する。

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

科目名	母子看護学特別演習
担当者	坂梨薫、永田真弓、勝川由美
授業の到達目標及びテーマ	<p>1.医療・保健・福祉・教育施設におけるケアの実際を調査し、母子専門看護職に求められる役割と課題を探究する。</p> <p>2.母子看護学領域における実践活動を通して得られた、自己の看護実践の課題を評価し、研究課題へと発展させる。</p>
授業の概要	<p>医療・保健・福祉・教育施設における看護実践のフィールド調査を計画・実施し、その調査をもとに各施設における看護職の果たす役割と課題について検討する。また、各自の実践活動、自施設における看護実践の課題について、既存の母子看護学ならびに演習をもとに分析・検討し、看護実践を改革・改善するための研究課題を明らかにする。</p>
授業計画	a. 内容の概要:授業回ごとの具体的授業内容 b. 到達目標:授業回ごとに目標とする理解度の目安
第1回 a.	オリエンテーション 演習の概要とその特徴、進め方、評価(坂梨薫)
b.	母子看護学特別演習の到達目標や進め方等について理解できる。
第2回～ a.	フィールド調査計画
第6回 b.	医療・保健・福祉・教育施設における看護実践のフィールド調査を計画する。
第7回～ a.	フィールド調査実施
第16回 b.	医療・保健・福祉・教育施設における看護実践のフィールド調査を実施する。
第17回～ a.	フィールド調査の報告・発表
第18回 b.	フィールド調査で得られた結果についてのプレゼンテーション・ディスカッションを行う。
第19回～ a.	母子看護領域の看護職が果たす役割と課題の検討
第20回 b.	フィールド調査をもとに母子看護領域の看護職が果たす役割と課題について検討する。
第21回～ a.	各自の実践活動、自施設における看護実践の課題の検討
第25回 b.	各自の実践活動、自施設における看護実践の課題について、既存の母子看護学ならびに演習をもとに分析・検討する。
第26回～ a.	各自の実践活動、自施設における看護実践の課題の検討を通じた研究課題の明確化
第30回 b.	各自の実践活動、自施設における看護実践の課題について、看護実践を改革・改善するための研究課題を明らかにする。
教科書	演習にて、適宜提示する。
参考書	演習にて、適宜提示する。
準備学習	事前に提示された文献を読んで講義に臨む。
成績評価方法・基準	<p>調査計画レポート20%、最終課題レポート60%、プレゼンテーションとディスカッション20%を総合的に評価する。</p> <p>調査計画レポートは、計画の妥当性ならびに実施状況を重視する。</p> <p>課題レポート、プレゼンテーションは、論証性、内容性、表現性、ディスカッションは参加度を重視する。</p>

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

科目名	高齢者・在宅看護学特講 I	
担当者	深谷安子、青木由美恵、留畑寿美江、小沼絵理	
授業の到達目標及びテーマ	<p>1. システムとは何かを一般システム理論をベースとして探求する。 2. 在宅・高齢者ケアに関連する保健・医療・福祉制度とその実態を把握する。 3. 現状の保健・医療・福祉システムの問題や課題が理解できる。 4. システムを発展させるためのあり方を考えることができる。</p>	
	<p>フォン・ベルタランフィの一般システム論をベースとして、在宅・高齢者ケアに関連する現状の保健・医療・福祉の諸制度とケアシステムの実態を把握し、その問題点や課題について論究する。またシステム構築に関する事例分析を通して、システムを発展させるために何が必要なのかその要素を検討する。</p>	
授業計画	a. 内容の概要:授業回ごとの具体的授業内容 b. 到達目標:授業回ごとに目標とする理解度の目安	
第1回	a.	一般システムについて 1) 一般システム理論の意味(深谷安子)
	b.	一般システム理論の概要を理解する。
第2回	a.	2) 開放システムのモデル(深谷安子)
	b.	開放システムとは何かが理解できる。
第3回	a.	3) 生物学におけるシステム理論(深谷安子)
	b.	システムとしての生物体の特性が理解できる。
第4回	a.	4) 人間の科学とシステム概念(深谷安子)
	b.	人間科学、社会科学へのシステム概念の適用の有効性が理解できる。
第5回	a.	在宅・高齢者ケアシステムについて 1) 在宅ケアに関連する保健・医療・福祉制度について(深谷安子)
	b.	在宅ケアに関連する保健・医療・福祉制度について理解する。
第6回	a.	2) 地域、在宅における医療・保健・福祉活動の実態と課題について(深谷安子)
	b.	地域、在宅における医療・保健・福祉活動の実態と課題を理解する。
第7回	a.	3) 高齢者ケアに関連する保健・医療・福祉制度について(留畑寿美江)
	b.	病院、施設における保健・医療・福祉制度と高齢者ケアの役割と多職種連携について学ぶ。
第8回	a.	4) 施設における高齢者ケアの実態と課題について(青木由美恵)
	b.	病院、施設における高齢者および家族のエンパワメントやサポートシステム、連携協働の現状を分析し、その課題について探求する。
第9回	a.	5) 日本における在宅医療、訪問看護事業の動向とその背景(小沼絵理)
	b.	日本における在宅医療、訪問看護事業の動向とその背景を理解する。
第10回	a.	6) 諸外国における在宅・高齢者ケアの動向とその背景1(青木由美恵)
	b.	制度や社会資源の現状を明らかにし、高齢者の尊厳を守りQOLを高める在宅・高齢者ケアシステムの課題を考える。
第11回	a.	7) 諸外国における在宅・高齢者ケアの動向とその背景2(青木由美恵)
	b.	制度や社会資源の現状を明らかにし、高齢者の尊厳を守りQOLを高める在宅・高齢者ケアシステムの課題を考える。
第12回	a.	保健・医療・福祉システムの考え方、進め方(深谷安子) 1) システムの目標の共有化
	b.	システムにおける目標の共有化の重要性が理解できる。

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

第13回	a.	2)システム構築のプロセス(深谷安子)
	b.	システムにおける相互作用の重要性が理解できる。
第14回	a.	3)事例分析を通してのシステム発展の要素(深谷安子)
	b.	事例を通してシステム発展の要素を分析する。
第15回	a.	4)事例分析を通してのシステム発展の要素(深谷安子)
	b.	事例を通してシステム発展の要素を分析する。

教科書	フォン・ベルタランフィ 長野敬・大田邦昌訳;一般システム理論、みすず書房
参考書	山本 勝(著);保健・医療・福祉の私捨夢づくり、篠原出版新社 筒井孝子:地域包括ケアシステム構築のためのマネジメント戦略 —integrated careの理論とその応用、中央法規出版
準備学習	事前に提示された文献を読んで講義に臨む。
成績評価方法・基準	課題レポート(60%)、プレゼンテーションとディスカッションの参加状況(40%)を総合的に評価する。

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

科目名	高齢者・在宅看護学特講Ⅱ	
担当者	青木由美恵、深谷安子、留畑寿美江、関尚子、木村勇介	
授業の到達目標及びテーマ	<p>1. 在宅・高齢者看護実践に必要なフィジカルアセスメントを理解する。 2. 利用者並びに家族のセルフケア能力アセスメントに基づいた支援のあり方を探求する。 3. 家族アセスメントに基づいた支援のあり方を探求する。 4. ケアマネジメントの構成要素とプロセスを理解する。</p>	
	<p>在宅・高齢者看護実践に必要なフィジカルアセスメント、セルフケア能力アセスメント、介護が家族ダイナミクスに与える影響を踏まえた家族アセスメントを学習し、利用者と家族の健康問題や課題をとらえ、援助のあり方を検討する。また支援に際して重要となるケアマネジメントのあり方を探求する。</p>	
授業計画	a. 内容の概要:授業回ごとの具体的授業内容 b. 到達目標:授業回ごとに目標とする理解度の目安	
第1回	a.	在宅・高齢看護に必要なフィジカルアセスメント(深谷安子)
	b.	在宅・高齢看護に必要なフィジカルアセスメントについて理解する。
第2回	a.	呼吸器系フィジカルアセスメント(関尚子)
	b.	呼吸器系フィジカルアセスメントについて理解を深める。
第3回	a.	循環器系フィジカルアセスメント(関尚子)
	b.	循環器系フィジカルアセスメントについて理解を深める。
第4回	a.	消化器系フィジカルアセスメント(関尚子)
	b.	消化器系フィジカルアセスメントについて理解を深める。
第5回	a.	神経系フィジカルアセスメント(関尚子)
	b.	神経系フィジカルアセスメントについて理解を深める。
第6回	a.	高齢者の健康と生活(留畑寿美江)
	b.	高齢者のADL、認知機能、主観的健康観、QOLなどの評価指標と、包括的な機能アセスメントについて学ぶ。
第7回	a.	老年看護にかかわる諸理論(青木由美恵)
	b.	老年看護にかかわる諸理論を学び、「老い(Aging)」について多様な視点から学ぶ。
第8回	a.	健康寿命、死とエンドオブライフケア(青木由美恵)
	b.	アドボカシー、エイジズムなど高齢者の価値観と信念を尊重した倫理的看護判断について学ぶ。
第9回	a.	高齢者・在宅ケアに関する倫理的課題(青木由美恵)
	b.	高齢者・在宅ケアに関する倫理的課題と高齢者の意思決定を支える支援について探求する。
第10回	a.	高齢者を対象とした研究方法 1)(留畑寿美江)
	b.	高齢者を対象とした介入研究を進めるにあたり、倫理的配慮および介入計画の方法を学び、理解する。
第11回	a.	高齢者を対象とした研究方法 2)(留畑寿美江)
	b.	高齢者を対象とした介入研究の量的研究と質的研究の実際を知り、理解する。

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

第12回	a.	ケアマネジメント 1) ケアマネジメントの意義、構成要素及びプロセス(木村勇介)
	b.	ケアマネジメントの意義、構成要素及びプロセスを理解する。
第13回	a.	2) ケアマネジメントを可能にする在宅ケアのネットワークづくり(木村勇介)
	b.	ケアマネジメントを可能にする在宅ケアのネットワークづくりの重要性を理解する。
第14回	a.	3) ケアマネジメント事例検討(木村勇介)
	b.	事例検討を通してケアマネジメントの意義、構成要素及びプロセスを理解する。
第15回	a.	4) ケアマネジメント事例検討(木村勇介)
	b.	事例検討を通して在宅ケアのネットワークづくりの重要性を理解する。

教科書	講義にて、適宜提示する。
参考書	1. 鈴木和子・渡辺裕子(2012). 家族看護学 理論と実践 第4版, 日本看護協会出版会 2. 山内豊明監修(2012). 生命・生活の両面から捉える訪問看護アセスメント・プロトコル, 中央法規. 3. 石鍋圭子編(2005). 訪問看護研修テキスト[ステップ2] リハビリテーション看護, 日本看護協会出版会
準備学習	事前に提示された文献を読んで講義に臨む。
成績評価方法・基準	課題レポート(60%)、プレゼンテーションとディスカッションの参加状況(40%)を総合的に評価する。

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

科目名	高齢者・在宅看護学特講Ⅲ	
担当者	青木由美恵、深谷安子、留畑寿美江、内山繁樹、木村勇介、岡部明子、平野美理香	
授業の到達目標及びテーマ	<p>1. 各発達段階や障害のレベルに応じた在宅生活支援のあり方を理解する。 2. 精神障害者の在宅ケアの実態を把握し、その支援のあり方を検討する。 3. 家族システムからみた高齢者・在宅療養者と家族の生活支援のあり方を検討する。 4. 多様なニーズを持つ高齢者・在宅療養者と家族へのチームアプローチのあり方を検討する。</p>	
授業の概要	<p>在宅ケアにおける小児から高齢者までそれぞれの発達段階における利用者や家族のニーズ、また難病、精神、終末期の利用者や家族のニーズについて理解を深め、利用者や家族の状況に応じた看護ケアのあり方を探求する。特に、これらの利用者への在宅ケアや看護の現状を把握し、チームアプローチのあり方について検討する。</p>	
授業計画	<p>a. 内容の概要: 授業回ごとの具体的授業内容 b. 到達目標: 授業回ごとに目標とする理解度の目安</p>	
第1回	a.	対象特性別の訪問看護利用者や家族への支援 1) 認知症高齢者と家族への支援(青木由美恵)
	b.	認知症高齢者と家族が抱えるケアニーズを把握し支援のあり方を検討する。
第2回	a.	2) 難病患者と家族への支援(木村勇介)
	b.	難病患者と家族が抱えるケアニーズを把握し支援のあり方を検討する。
第3回	a.	3) 癌並びにターミナル患者と家族への支援(木村勇介)
	b.	癌並びにターミナル患者と家族が抱えるケアニーズを把握し支援のあり方を検討する。
第4回	a.	4) 医療依存度が高い患者と家族への支援(木村勇介)
	b.	医療依存度が高い患者と家族が抱えるケアニーズを把握し支援のあり方を検討する。
第5回	a.	精神障害者の在宅ケアニーズと支援のためのシステムづくり(内山繁樹) 1) 地域で生活する精神障害者の現状とケアニーズ
	b.	地域で生活する精神障害者の現状とケアニーズを把握する。
第6回	a.	2) 精神障害者への在宅生活支援の現状と課題(内山繁樹)
	b.	精神障害者への在宅生活支援の現状を把握し、問題や課題を検討する。
第7回	a.	高齢者の自律・自立支援(1)(留畑寿美江)
	b.	慢性的な疾患や健康障害を有する高齢者の日常生活における看護援助技術のあり方について学ぶ。
第8回	a.	高齢者の自律・自立支援(2)(留畑寿美江)
	b.	慢性的な疾患や健康障害を有する高齢者の自律と自立支援について考察し、現状の理解と課題への展望を探究する。
第9回	a.	高齢者の自律・自立支援(3)(青木由美恵)
	b.	認知症高齢者と家族の自律と自立支援について考察し、現状の理解と課題への展望を探究する。
第10回	a.	家族システムからみた在宅ケアと家族支援(1)(岡部明子)
	b.	家族システムからみた在宅ケアと家族支援のあり方を理解する。
第11回	a.	家族システムからみた在宅ケアと家族支援(2)(岡部明子)
	b.	事例を通して家族システムからみた在宅ケアと家族支援のあり方を理解する。

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

第12回	a.	施設ケア(青木由美恵)
	b.	事例を通して家族システムからみた施設における高齢者ケアと家族支援のあり方を探求する。
第13回	a.	地域包括ケア(1)(平野美理香)
	b.	地域包括ケアに求められる看護師の視点と課題について教授する。
第14回	a.	地域包括ケア(2)(平野美理香)
	b.	地域包括ケアに求められる看護師の視点と課題について教授する。
第15回	a.	まとめ(深谷安子)
	b.	

教科書	講義にて、適宜提示する。
参考書	講義にて、適宜提示する。
準備学習	事前に提示された文献を読んで講義に臨む。
成績評価方法・基準	課題レポート(60%)、プレゼンテーションとディスカッションの参加状況(40%)を総合的に評価する。

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

科目名	高齢者・在宅看護学演習
担当者	深谷安子、青木由美恵、留畑寿美江
授業の到達目標及びテーマ	<p>1. 高齢者・在宅看護学に適用可能な方法論や理論についての理解を深める。</p> <p>2. 既存の研究論文のクリティークをとおして高齢者・在宅看護学研究のこれまでの成果と今後の課題について考える。</p>
授業の概要	<p>高齢者・在宅看護に適用可能な方法論や理論についての理解を深める。また既存の研究論文のクリティークをとおして高齢者・在宅看護学研究のこれまでの成果と課題、ならびに研究方法のあり方について探求する。</p>
授業計画	a. 内容の概要:授業回ごとの具体的授業内容 b. 到達目標:授業回ごとに目標とする理解度の目安
第1回～	a. 移行期ケア関連文献クリティーク(深谷安子)
第2回	b. 移行期ケアに関する既存研究の知見を把握する。
第3回～	a. 高齢者ケア関連文献クリティーク(青木由美恵(第6回～第9回)・留畑寿美江(第3回～第5回))
第9回	b. 高齢者ケアに関する既存研究の知見を把握する。
第10回～	a. 訪問看護関連文献クリティーク(深谷安子)
第11回	b. 訪問看護に関する既存研究の知見を把握する。
第12回～	a. 地域連携関連文献クリティーク(深谷安子)
第13回	b. 地域連携に関する既存研究の知見を把握する。
第14回～	a. 家族看護関連文献クリティーク(深谷安子)
第15回	b. 家族看護に関する既存研究の知見を把握する。
教科書	演習にて、適宜提示する。
参考書	演習にて、適宜提示する。
準備学習	文献を読んで講義に臨む。
成績評価方法・基準	クリティーク(60%)、ディスカッションの参加状況(40%)を総合的に評価する。

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

科目名	高齢者・在宅看護学特別演習
担当者	深谷安子、青木由美恵、留畑寿美江
授業の到達目標及びテーマ	<p>1.医療・保健・福祉施設における在宅・高齢者ケアの実際を調査し、看護職に求められる役割と課題を探究する。 2.高齢者・在宅看護学領域における実践活動を通して得られた、自己の課題を評価し、研究課題へと発展させる。</p>
授業の概要	<p>医療・保健・福祉施設における在宅・高齢者ケアのフィールド調査を計画・実施し、その調査をもとに各施設における看護職の果たす役割と課題について検討する。また、各自の実践活動、自施設における看護実践の課題について、既存の高齢者・在宅看護学ならびに演習をもとに分析・検討し、看護実践を改革・改善するための研究課題を明らかにする。</p>
授業計画	a. 内容の概要:授業回ごとの具体的授業内容 b. 到達目標:授業回ごとに目標とする理解度の目安
第1回	<p>a. オリエンテーション 演習の概要とその特徴、進め方、評価(深谷安子) b. 高齢者・在宅看護学特別演習の到達目標や進め方等について理解できる。</p>
第2回～	a. フィールド調査計画(深谷安子、青木由美恵、留畑寿美江)
第6回	b. 医療・保健・福祉施設における高齢者・在宅ケアのフィールド調査を計画する。
第7回～	a. フィールド調査実施(深谷安子、青木由美恵、留畑寿美江)
第16回	b. 医療・保健・福祉施設における高齢者・在宅ケアのフィールド調査を実施する。
第17回～	a. フィールド調査の報告・発表(深谷安子、青木由美恵、留畑寿美江)
第18回	b. フィールド調査で得られた結果についてのプレゼンテーション・ディスカッションを行う。
第19回～	a. 高齢者・在宅看護領域の看護職が果たす役割と課題の検討(深谷安子、青木由美恵、留畑寿美江)
第20回	b. フィールド調査をもとに高齢者・在宅看護領域の看護職が果たす役割と課題について検討する。
第21回～	a. フィールド調査を通しての看護実践の課題の検討(深谷安子、青木由美恵、留畑寿美江)
第25回	b. フィールド調査内容を、既存の高齢者・在宅看護学ならびに演習をもとに分析・検討する。
第26回～	a. フィールド調査の看護実践の課題の検討を通じた研究課題の明確化(深谷安子、青木由美恵、留畑寿美江)
第30回	b. フィールド調査分析を通して、看護実践を改革・改善するための研究課題を明らかにする。
教科書	演習にて、適宜提示する。
参考書	演習にて、適宜提示する。
準備学習	事前に提示された文献を読んで講義に臨む。
成績評価方法・基準	<p>課題レポート(60%)、プレゼンテーションとディスカッションの参加状況(40%)を総合的に評価する。 調査計画レポートは、計画の妥当性ならびに実施状況を重視する。 課題レポート、プレゼンテーションは、論証性、内容性、表現性を重視する。</p>

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

科目名	生活支援看護学特別研究
担当者	坂梨薫、永田真弓、青木由美恵、深谷安子、勝川由美、留畑寿美江
授業の到達目標及びテーマ	<p>1.自己の探求するテーマについて、包括的な文献検討ができる。</p> <p>2.研究計画書を作成する。</p> <p>3.研究計画書にそって、研究をすすめ、最終的には修士論文として仕上げる。</p>
授業の概要	<p>生活支援看護学分野における看護のあり方を追究したり、医療・保健・福祉施設における問題解決に向けて多面的視点から探求する基礎能力を養う。一連の研究プロセスを通して生活支援看護学分野(母子看護学、高齢者・在宅看護学)の発展に寄与する研究能力を養う。</p>
授業計画	a. 内容の概要:授業回ごとの具体的授業内容 b. 到達目標:授業回ごとに目標とする理解度の目安
第1回～	a. 自己のテーマを確定および関連文献検討
第20回	b. 自己のテーマの先行研究を包括的にレビューし、文献検討としてまとめる。
第21回～	a. 研究計画書作成
第30回	b. 自己の研究テーマに基づき研究計画書を作成する。
第31回～	a. 研究の実施
第50回	b. 研究計画書に基づき研究する。
第51回～	a. 修士論文作成
第70回	b. 研究成果を修士論文としてまとめる。
第71回～	a. 修士論文発表会
第75回	b. 発表会にて修士論文を発表し、評価、コメントを踏まえ論文投稿の草案を作成する。
教科書	その都度提示する。
参考書	必要時提示する。
準備学習	提示された文献を必ず読んでから個人面談に臨む。
成績評価方法・基準	主査および副査による論文審査と口頭試問80% 修士論文発表20%